

本時のねらい

・問題場面をテープ図に表し、求め方を考え、加法と減法の相互関係について理解を深める。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・ロイロノートを使うことで、それぞれの問題を簡単にテープ図に表すことができ、図をもとに求め方を考え、立式する際の手立てとなることをねらいとした。
・自分の考えと他の児童の考えを共有し、比較しながら考えを深める。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・Chromebook ・授業支援ソフト（ロイロノート） ・プロジェクター

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○前時のふりかえり ○めあての確認 「図にあらわして、もとめ方を考えよう」	・教員用端末をプロジェクターで投影し、前時で使用したロイロノートのカードを示しながら、図のかき方の手順について復習する。
展開 (35分)	○問題をテープ図で表して、立式し、答えを求める。 ○全体で自分の考えを発表する。 ○正しい答えをノートにまとめる。 ※2問目、3問目も同様に行う。	・ロイロノートで問題を送る。 ・手書き機能を活用し、問題文に線を引かせたり、テープ図を書かせたりして考えさせる。 ・教員用端末で児童の考えをプロジェクターで投影し、児童に発表させる。 ・発表の際、他の児童は、自分がロイロノートにかいた図や式などと考えとを比較しながら聞くようにする。
まとめ (5分)	○本時の学習のまとめをする	・教員用端末を使って、3つの問題で書いたテープ図をプロジェクターで投影し、学習のまとめを行う。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：問題文に赤(分かっていること)と青(分かっていること)の線を引く場面



写真2：問題をテープ図で表して、立式し、答えを求めようとしている場面



写真3：自分の考えを発表する場面

児童生徒の反応や変容

・ロイロノートを用いて、図をかく活動を繰り返し行ったことで、自分で図を作成して立式と答えまで導くことができる児童が増えた。また、ロイロノートを用いて図をかくことで、自分の考えを視覚化するだけでなく、何度も書き直しができるので、意欲的に取り組もうとする児童も多く、試行錯誤しながら取り組むことができていた。
・自分の書いたカードがプロジェクターで投影されることで、自分の考えをみんなの前で発表したいという児童も多く見られた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

ロイロノートを使用することで、問題文に線を引く際に赤や青などの違う色の線を引くことや、書き直しも迅速にできるので、効率よくスムーズに活動を行うことができた。また、間違ってもすぐにやり直せることから、児童にとっては間違えることを気にせず、安心して学習できていた。

ロイロノートの提出箱を使うことにより、考えの共有がしやすく、自分の考えと他の児童の考えの比較も容易にできることもよい点である。